

石田 真弓

早稲田大学大学院人間科学研究科 博士後期課程

高齢者遺族へのケアに必要とされる構成概念の調査研究

本研究では、高齢者遺族へのケアに必要とされる構成概念の調査研究を行った。まず、本邦で最も多い死因である「がん」に着目し、がんによる死別を経験した遺族に対する精神・心理的状态の把握について、遺族外来を受診した患者の精神障害有病率の検討を通して調査した。その結果、約8割の遺族が精神科の診断基準を満たし、そのうち約4割がうつ病、約3割が適応障害であった。それぞれの遺族には薬物療法や心理療法など適切な治療が継続的に行われた。また、症例を通して、がん患者遺族のうつ病について検討した。本症例では、遺族が経験した死別に関する夢(Bereavement Dream)を扱い、当初死別反応によって生じていると考えられた夢が、うつ病の治療と共に徐々に頻度が減少し、うつ病の寛解と共に消失したことを考察した。本研究では、死別反応とうつ病の臨床的な判別の必要性について検討し、高齢者福祉への課題として、死別後の精神面へのケアが高齢者遺族にとって喫緊の課題であることが明らかになった。